

# 飢餓で苦しむアフガニスタンの現状

—アフガン4兄弟のアスガール医師が語る—

上

ソ連侵攻から40年にわたって紛争が続いたアフガニスタン。2021年8月、アメリカ軍が撤退すると、タリバンが政権を掌握。紛争は終焉を迎えたが、新たに経済混迷で餓死が心配される国民が半数以上出るのではないかと予測がされています。

茨城国際親善厚生財団（IIFF）は、こうしたアフガニスタン紛争の中で1988年から5年間にわたり、紛争で負傷したアフガニスタンの人々56人を城西病院に受け入れ、治療を行いました。1991年、IIFFが日本国際親善厚生財団（JIFF）として活動している中で、アフガニスタン難民居住区だったパキスタンのペシャワールに無料診療所「JIFFメディカルセンター」をオープン。アメリカの同時多発テロ後の2002年9月に「JIFFメディカルセンター」をアフガニスタンのカブールに移し、城西病院から医師や看護師などを派遣し、戦乱で負傷した人々の治療に当たりました。

アフガニスタンの紛争が長期化、混迷化する中で、外国人が誘拐されるという事件も続発。2013年にはセンターの運営をすべて現地の人に任せました。その中心スタッフの1人が、城西病院の職員だったアマディヤール・アスガール医師です。

アスガール医師は、ソ連侵攻の始まった1979年当時、大学生で医師を目指して勉強していました。紛争の中、医師となって1998年来日。JIFFメディカルセンターのオープンとともに、パキスタンやアフガニスタンと日本を行き来し、城西病院のスタッフとして戦傷者の治療に当たっていました。



アマディヤール・アスガール医師

IIFFのアフガニスタン難民に対する国際医療支援で、アフガニスタンと日本をつなぐアフガン4兄弟の2番目として活動。医師として、母国の苦境に少しでも役立ちたいと、2015年にカブールに戻って診療を行っています。

2013年に現地の人に委ねたJIFFメディカルセンターは、建物や医療機器などをそのまま引き継いでNGO「サハ医療センター」として運営を続けていました。2015年、アスガール医師は、医師として母国に尽くしたいとアフガニスタンに戻り、サハ医療センターで医師として活動を行っています。



サハ医療センターでレントゲン撮影



サハ医療センターで栄養食を受け取る母子



# 飢餓で苦しむアフガニスタンの現状

## —アフガン4兄弟のアスガール医師が語る—



2019年12月、ペシャワール会で活動していた中村哲医師が、アフガニスタンで武装勢力に襲われ、銃撃されて死亡する事件が起きました。「ペシャワールでは、中村医師の診療所と JIFF メディカルセンターは歩いて5分ぐらいの場所にありました。中村医師が亡くなったと聞いて、ショックを受けました。中村医師は、バーバ中村と呼ばれ称えられていました」とアスガール医師は話します。

2021年8月、アフガニスタンに駐留していたアメリカ軍が撤退しました。この混乱の中、アフガニスタンのガニ大統領も国外に脱出。タリバンが政権を樹立、タリバン政権に不安を感じる人が次々に国外脱出を図るという事態に陥りました。

タリバン政権となって、欧米の中央銀行などはアフガニスタン政府の海外資産を凍結。タリバンは国内での自国通貨アフガニ以外の使用を禁じました。このた



アフガニスタンのカブールに建てられた JIFF メディカルセンター。現在もサハ医療センターとして NGO の医療支援活動を継続している

め、海外からの送金はできなくなり、アフガン国内で約 1500 団体が活動していた NGO の多くが撤退したといいます。

タリバン政権により、それまで紛争や自爆テロなどが頻発していたアフガニスタンですが、「治安はよくなりました。部屋の鍵をかけずに外出しても、何も盗まれないほど」とアスガール医師は語ります。しかし、学校で教えていた約 100 万人の教師や旧アフガニスタン政府の兵士 35 万人、女性など、多くの人が仕事をなくし、銀行は閉鎖状態で、アフガニが暴落、物価は 2 倍となり、食料不足の中で病院にもかかれない人たちが数多くいるといいます。



診療に訪れた栄養失調の乳児



診療の整理券を取るために朝5時から並ぶ人々



診療を受ける親子

# 飢餓で苦しむアフガニスタンの現状

—アフガン4兄弟のアスガール医師が語る—

Ⓣ



1988年4月、城西病院で手術を受けるサラムジャン君

国連は、アフガニスタンの経済崩壊によって約4000万人の人口の半数以上、2280万人が飢餓状態にいと報告しています。「カブールには私立病院や国立病院がありますが、治療費が高くて多くの人がかかることができません」とアスガール医師。NGO サハ医療センターでは安い治療費で診察できるため、朝から大勢の人が並んでいるといいます。

サハ医療センターには、朝5時から多くの人々が整理券を求めて列を作るといいます。外来患者が約150人、リハビリ患者が約450人、栄養失調の患者が約10人など、1日に約600人の患者を診察します。一方でその2倍の人が診察を受けることができずに帰っていくといいます。

センターでは、アスガール医師ら医師3人、看護師4人、理学療法士8人など約20人の医療スタッフが携わっています。そして、1988年に城西病院で最

初のアフガニスタン戦傷者として治療を受けたサラムジャン君(来日当時9歳、現在45歳)の弟2人が、ガードマンとして働いています。

失業の拡大や事実上の金融システムのストップに加え、干ばつの影響もあり、飢餓の危機がますます深刻なものになっています。

「子供は母乳で栄養を取ります。しかし、その母親が満足食することができず、母乳にも栄養が含まれない。母乳に代わる栄養も入手するのが困難な状態です」と現地の様子をアスガール医師が語る。サハ医療センターで配る栄養失調者への食糧や栄養食の配布は1日10人にしか渡すことができないのが現状です。アスガール医師は「アフガニスタンは、あしたどうなるかも分からない状況です。欧米はタリバン政権に反発して経済制裁を続けています。銀行のシステムが事実上ダウンし、海外からの送金もできず、NGOも活動できない状況が続いています」と表情を曇らせていました。

2022年4月15日



リハビリの様子



カブールの様子



カブールで国際医療支援を行うアフガン4兄弟。後列右からアスガール、カゼム、ジャファール、アクバル